



学校だより

2025年6月2日
藤沢市立御所見中学校
校長 山田 大

修学旅行の意義・価値とは？

今回の学校だよりは修学旅行特集です。中学校最大の行事と言っている修学旅行ですが、2年生から準備を進め、約7万円の費用をかけて、当日は朝6時集合（職員は5時40分）で3日目の帰着は18時過ぎでした。まさに一大イベントですが、その意義と価値について考えました。※ちなみに修学旅行中の校長の起床・就寝時間は5時-25時でした。

修学旅行のしおりに「校長からのメッセージ」として次の文章を掲載しました。

『修学旅行の費用はいくらか知っていますか？約7万円です。マクドナルドのビッグマックセットが約100回買えます。ニンテンドースイッチ2の本体とゲームソフトが2本買えます。修学旅行にそれほどの価値があるのでしょうか？

それは、人それぞれだと思います。ビッグマックセットもニンテンドースイッチ2も人によってその価値が大きく変わることはないでしょう。しかし、修学旅行は違います。帰ってきたときに、1万円の価値にしか感じられなかった人もいれば、100万円以上に感じる人もいます。』

なぜ、このようなことを書いたのか？昨年度も修学旅行に同行して、その意義や価値について少し疑問を感じたからです。昨年も今年も修学旅行で楽しかったことの上位は「ホテルで過ごしたこと」「新幹線やバス車内で過ごしたこと」でした。一瞬、「なんだ奈良も京都もどうでもいいのか？」と感じてしまいましたが、一方でそれが修学旅行の一番の楽しみということは私が学生の頃から変わっていないと思います。3日間を通して3年生の皆さんは、とてもマナーが良く、時間を守り「自分も人も大切に」過ごしていました。そして実に楽しそうでした。それだけでも修学旅行の目的を達成したと考えることも出来ます。

それはいいとして、せっかく多くの人が初めて行く京都・奈良で特別の体験・学習をしてほしいというのは、教員や保護者の方の願いでしょう。そこで、修学旅行の意義や価値について考えさせられたエピソードを以下に紹介します。

外国人観光客の多さ、混雑、駆け足

昨年も感じたのは外国人観光客の多さです。右の写真は東大寺大仏殿の前ですが修学旅行生を除くと約9割が外国人観光客で10年前に比べると10倍くらいに感じます。聞こえてくる言語は様々で、昨年よりヨーロッパ系の方が増えているようでした。どこもこのように混雑しており、特に清水寺の参道は満員電車のようなので、おのずと駆け足で見学して回るようになります。

例えば右の写真は東大寺の敷地内にある「正倉院」ですが、班別行動でここを訪れた班はほとんどなく（二月堂も同様です）、奈良公園で鹿と遊んだり、土産を買ったり、ソフトクリームを食べたりしていました。とてももったいないなと感じました。

その場所でしか見られないもの、味わえないことをじっくりと体験してほしいと思いました。外国人観光客の多さはこの先もずっと続くでしょう。このまま関西方面の修学旅行を続けていくのが本当にいいのか考えさせられます。

3年生にとって、今回の修学旅行の価値はいくらに値したのでしょうか？



食べ歩き、食べ残し、愛情弁当、商業的（お小遣い3万円）

また、今回考えさせられたのが上限とはいえお小遣い3万円です。今やお土産もインターネットで買える時代、その土地でしか買えないというものはほぼないと言っていいでしょう。渡す人の喜ぶ顔を思い浮かべての買い物は楽しいものですが、私もお菓子などの土産物をかなり買いましたが、はたして本当に必要だったのかと反省しました。

また、今回は自由行動が多く、その度に食べ歩きをする場面が目につきました。実際には歩きながら食べるのはルールで禁止されていましたが、「食べなきゃ損」のように必要以上に買って食べていた印象です。

修学旅行生以上に食べ歩きやお土産の購入に熱心だったのが外国人観光客で、どの観光スポットでも食べ物やお土産を買う外国人で賑わっていました。着物をレンタルして観光地を巡る人も昨年より多く感じ、10年前と比べてさらに商業的になったなと感じました。

外国人観光客を悪く言うつもりはありませんが、何かそのパワーに圧倒され、雰囲気にも踊らされて修学旅行生も思わず買ってしまふ、そんな印象を受けました。

また、薬師寺で聞いたお坊さんの法話もギャグ満載で、時間があつという間に過ぎて楽しかったのですが、後から考えると一番伝えたかったのは何だったのか？と疑問を感じました。まるでピン芸人のネタを見ているようであり、テレビショッピングの実演販売を見ているような感覚でした。お金をもらって話をするのだから、聞いてる人に楽しんでもらいたいというのはわかるのですが、あまりにエンターテインメント的でもっと真面目に話した方が心に残ると思いました。こちらも商業的だなと感じました。

さらに、商業的というか、もったいなくて残念だったのは、ホテルの食事の食べ残しです。丸テーブルで中央の大皿から取り分ける形だったのが理由かも知れませんが、食べ残しがとても多かったことです。

右の上の写真は職員のテーブル、下が生徒のテーブルです。昭和生まれ、昭和育ちの私としては「食べ物を残すのはもったいない」という感覚が非常に強く、「出されたものはすべてキレイに食べるのが礼儀」と親から教わり、それを守ってきました。ですから、職員はまず、全員分を取り分け、各自におかずがすべて行き渡った状態から食べ始めます。生徒は自分の食べたいものだけを取って、割り当てられたおかずでもテーブルの中央に残ったままになります。残った食べ物はそのまま廃棄となるわけです。

これについては職員の指導も不十分であったと反省しています。食べ歩きであまりおなかがすいてなかったのかも知れません。

1日目の夕食の残りがあまりに多かったので、できるだけ残さず食べるように話をしてから、少し改善されました。「茶碗にご飯つぶがたくさん残っている」と指摘する職員もいて「食育」「フードロス」などの学習が不十分だったと課題に感じました。

食に関しては悪いことばかりでなく、行きの新幹線の昼食は、手作り弁当を持参する生徒が多く、しかもかなり手の込んだ「愛情弁当」をたくさん目にしました。きっと朝早くからお家の人（自分で作った人もいるかな）一生懸命作ってくれたのでしょう。

新幹線での昼食は食べ残し、車内の食べこぼしもほとんどなく、ゴミの処理もキチンとされており、ここでも御中生のマナーの良さが発揮されていました。



修学旅行のルールで考えること、スマホはあり？なし？

修学旅行のしおり「校長からのメッセージ」のつづきです。

『もう一つ、修学旅行の価値を高める要素として、御所見中のスローガン「自分も人も大切に」という言葉が重要です。3日間、自分の家を離れ、慣れない環境で大勢の生徒と行動を共にします。みんなが旅行を楽しむためにはどうしたらいいか？判断・行動に迷ったら「それって、自分を大切にしている？」、「それって人を大切にしている？」と自分に問いかけてください。』

ここで言いたかったのは、ルールやマナーをどう考えますか？ということ。そこで毎年問題になるのが「スマホ（携帯電話）を持って来ていいか」というルールです。今回も「スマホ（携帯電話）は禁止」になりましたが、出発前に修学旅行実行委員長の31組Sさんに「全員守れると思う？」と聞いたら、「全員は無理だと思います」との答え。私も「たぶん1割くらいの人が持ってきちゃうんじゃないの？」と言いました。それでも、「例え持ってきても、みんなの前で使わなかったら大成功でしょう。それに期待しましょう。ルールを守ることも大切ですが、スマホから解放される3日間はとても有意義であり、貴重な体験ですね」なんて会話をしました。

結果的には、やはり数件の違反が発覚しました。中には「親に持って行くよう言われた」という理由で持ってきた人もいました。仮に持ってきて使わずに思いとどまってほしかったと残念に思います。違反をした人は、その日に保護者を呼んでその場でスマホ（携帯電話）を返却しました。すべての指導が終わったのは21時近くでした。

しかし、そもそも「スマホ（携帯電話）禁止」は妥当なルールなのでしょうか？絶対に守れない前提のルールが必要なのでしょうか？

修学旅行の目的は？スマホ（携帯電話）を持って行く目的は？持っていない目的は？みんなで考える余地がありそうです。

目的を大切に

去年も出発前に修学旅行実行委員長から話を聞きました。3年生がどのような想いで修学旅行に臨むのか確認するためです。行事を行う上で、目的はとても重要です。以下しおりの記述です。

『どんな修学旅行にしたいか聞いたところ、「3年間の集大成として、思い出に残る楽しい修学旅行にしたい」と話してくれました。Sさんが思う修学旅行の目的は「一生に一度のその瞬間を今いる友人と一緒に味わうため」と教えてくれました。』素晴らしい「目的」ですね。皆さんの修学旅行の「目的」は何ですか？皆さんにとって、忘れられない、思い出に残る修学旅行になることを期待しています。

来年の修学旅行も関西方面で実施されます。今年度の成果と課題をふまえて、生きる力を育む、学び多く有意義な修学旅行となるよう準備していきたいと思っております。



小中交流の推進「3校合同コミスク」、「学びづくり推進事業」

今年度から御所見小学校、中里小学校と合同で「御所見・中里地区学校運営協議会（コミュニティースクール）」がスタートしました。5月22日（木）に第1回の会議が御所見中学校図書館で開催され、各校の校長から「学校経営方針」について説明があり、委員の皆様から承認頂きました。今後は、より地域の力を生かし、小中学校の連携を深め、よりよい学校づくりに努めます。

さらに、今年度から「かながわ学びづくり推進地域委託研究」という事業の委託を受け、「小・中学校の9年間で育成する子ども像の共有・実現」を目指して3校合同で研究に取り組めます。昨年度から御所見小学校とは合唱や給食で交流が行われていましたが、具体的には合同の講演会、教科研究会、行事などに取り組めます。

